



パパたちは真剣な表情でたこやきに挑戦。「早く焼けないかな」と待つ子供たち(奈良市の登美ヶ丘カトリック幼稚園で)

パパが料理長 お味はいかが...

仕入れ 調理と大奮戦

奈良の登美ヶ丘カトリック幼稚園

日豪交流かね子供まつり

オーストラリア総領事一家が特別参加したほか大和高田市と姉妹都市のオーストラリア・リスモア市のカワレー市長や留学生も招待され、国際色豊かな催しとなった。

パパの手作りのサービスに子供たちは大喜びというユニークな子供まつりが二十五日、奈良市中登美ヶ丘カトリック幼稚園(トニ・グリーン園長)で開かれ、園児と母親、それに近所の

このまつりは毎年、新入園児の歓迎会をかねて行っているもので、企画や準備はすべてお父さんたち。日ごろ、父兄会や保育参観などの行事に参加する機会が少ないお父さんたちにもっと関心を持ってもらい子供たちとのコミュニケーションをはかるというねらいで、主催は登美ヶ丘カトリック・クラブ(森俊彦会長、百四十人)。

この日は朝から、ビシクのはつぴにエプロンをつけたお父さんたちが仕入れ、調理に大奮戦で、お母さんたちの手助けはいっぱい借りない。園庭いっぱいには鍋裏子やたこやき、みたらしだんごなどの模擬店が並び、プログラムは日豪の国旗掲揚、花束交換の後、子どもランニングでスタート。幼稚園のまわりをランニングした子供たちはさっそくお目当ての店の前に列を作り、お父さんたちは子供たちの応対に大いそがし。テニスコートではボールを使った楽しいゲームが行われ、昼食は同クラブ目標のババカレー。

午後からはお待ちかねのシャングヘン大会。参加者全員に美しいオーストラリアの切手がプレゼントされ、きれいにきざりつけられた日豪みこしが園内を練り歩いたり、映画が上映されたり、盛りだくさんの内容に子供たちは大喜びだった。